

保険者訪問



中世の城下町の
面影を残す

清水と温泉の恵み豊かな

菊池市



紅葉に彩られる菊池溪谷

菊池市は熊本県北東部に位置し、北部から東部にかけて阿蘇外輪山を含む山岳が連なる地勢です。平野部は山からの豊富な水が河川となり流れ込むため肥沃な土地が広がり、この恵まれた資源を活かした農林畜産業が盛んです。特に畜産業は西日本有数の産出額を誇ります。また、菊池米・水田ごぼう・イチゴ・メロン・かすみ草・乾しいたけなど多くの農産物があり、中でも「七城のこめ」は、平成 20 年度から 5 年連続で日本穀物検定協会食味ランキングの最高評価「特 A」を獲得しています。一方、近年は各地に工業団地も整備され、IT やバイオなどの先端企業を中心に企業立地が進んでいます。

市内には自然や歴史、伝統を物語る観光名所が多くあり、中でも菊池川の源流をなす菊池溪谷は日本名水百選にも選ばれ、毎年約 30 万人の観光客が訪れる人気スポットです。11 月中旬には紅葉が見ごろを迎えます。また、日本の名湯百選に選ばれた菊

人 口	50,884 人	
国保被保険者数	15,937 人	
	一般	14,945 人
	退職	992 人
後期高齢者数	8,334 人	
世 帯 数	18,440 世帯	
	国保世帯数	8,160 世帯
医療機関等数	医科	37 機関
	歯科	19 機関
	調剤薬局	17 薬局
担 当 課	健康推進課	

(平成 25 年 9 月末現在)

池温泉など多くの温泉があるほか、桜やコスモス、ホテルの名所も各地にあり、四季折々に豊かな自然を楽しめます。毎年 11 月 1 日～15 日には市民広場で「菊人形・菊まつり」が開催され、中世にこの地を治めた菊池一族の菊人形などが展示されます。



菊池一族をかたどった菊人形



七城町にあるコスモスの名所「コスモスビレッジ」

菊池市は、特定健診の受診率が伸び悩んでいることから、住民への啓発と受診しやすい環境づくりに力を入れています。住民の健康づくりに向けた取り組みや保険税の収納状況などと併せて、健康推進課でお話を伺いました。

特定健診後の反省会で意見を出し合い 受診しやすい環境づくり

菊池市では特定健診を集団健診・個別健診・人間ドックで実施しています。そのうち集団健診は、がん・結核・腹部超音波検診等を組み合わせた複合検診を公立菊池養生園診療所で行っており、今年度は7月～9月に実施しました。実施後には市と養生園のスタッフで反省会を開き、受診者からの苦情や要望などについて話し合い、課題を次に持ち越さないように努めています。これまで要望が多かったバスによる送迎や土日の健診、託児所の設置などを、菊池養生園にお願いして実現しました。もれ健診を10月中旬に3日間、追加健診を11月に行う予定ですが、利便性の向上が受診者増につながればと考えています。

チラシやマスコミなどを活用して 住民に特定健診をPR

受診率が伸び悩んでいる原因は、特定健診のPR不足もあるのではないかと考え、今年度は広報活動に力を入れています。

一例として、チラシを手作りし、受診券送付時に同封するなど、いろいろな機会に配布しています。幼稚園や保育園からも「保護者のみなさまへ」という受診啓発のチラシを配布してもらいました。託児所の設置も案内しています。

また、HPや防災無線、啓発車などで受診を呼び掛けたり、商工会やJAなどの集まりに出向いてPRするほか、さまざまな機会を活用して周知に努めています。その一例として、国保連合会が広報共同事業の一環で今年度実施するラジオ番組での市町村の取り組みレポートにも応募し、11月にイベントの周知と併せて2回放送されます。

「いきいき養生塾」「いきいきトレ活クラブ」などで市民の健康づくりを応援

平成21年度から年に4期、菊池養生園で健康づくり教室「いきいき養生塾」を開催しています。参加者は、特定健診で異常があった人に重点的に呼び掛けて募集します。定員30人、受講料は1000円で、週1回、講義と実技を1時間ずつ行います。全10回のうち開講時と閉講時に血圧などを測定して効果を見ていますが、多くの人でメタボが改善されています。さらに、閉講後も運動を継続してもらえるよう、4週間後にも効果測定しています。講義・実技ともプログラムが好評で、市内各地域から参加があり、人気のある教室です。次回は11月から来年2月までの第3期が開催されます。

また、今年度から「無理なく楽しく続けられる運動を」と、40歳以上の市民を対象に「いきいきトレ活クラブ」を開催します。10月から11月にかけて昼1回・夜3回の計4回、脳活性化エクササイズやストレッチ・筋力トレーニングなどを行います。受講料は無料で、健診結果から保健指導が必要な人にも気軽に参加してほしいと考えています。

そのほか、健康増進を目的としたイベントとして、健康づくり大会を毎年開催しており、今年度は11月16日に開催されます。

温泉を活用した水・湯中運動教室

菊池市では合併以前の平成15年度から、温泉を活用した健康づくりとして湯中運動教室を開催しており、合併後も市内3カ所（中学校の温水プールなど）でそれぞれ週1回ずつ、水・湯中運動教室を開催してきました。現在は自主講座となり、市は健康づくり推進事業補助（プール使用料の補助）という形で活動を支援しています。定員は30人で、平成23年度は45回開催され、のべ約480人の参加がありました。参加者は50～70歳代が多く、既往症のある人も多いですが、「（高血圧や高脂血症などの）薬が減った」「関節痛が改善された」などの声も聞かれます。

いろいろな教室での活動がこれからも市民の健康づくりに役立ち、医療費の削減につながることを期待しています。

高額滞納者にならないよう 早期納付を促す

保険税収納率は、現年度分が平成 24 年度で約 88%と県内でも低く、国保加入者には高齢者や低所得者が多い一方で、1 人当たり税負担額は県内でも上位であることから、税率を上げることも難しい状況です。

市の財政状況改善のためには医療費などの支出削減と併せて収納率向上が大きな課題となっています。

税の賦課徴収は税務課が担当で、国保や介護の担当と連携して収納率向上を図っています。短期保険証更新時に納税相談を

実施し、毎月最終週の平日に 5 日間、午後 8 時までの夜間窓口を開設するなど、納付の便宜を図っています。

また、口座振替加入率向上のために、新規で市税の口座振替を申し込んだ人に、先着 600 人まで菊池市の第三セクターで利用できる 500 円分の商品券を進呈する口座振替推進キャンペーンもあわせて実施しています。

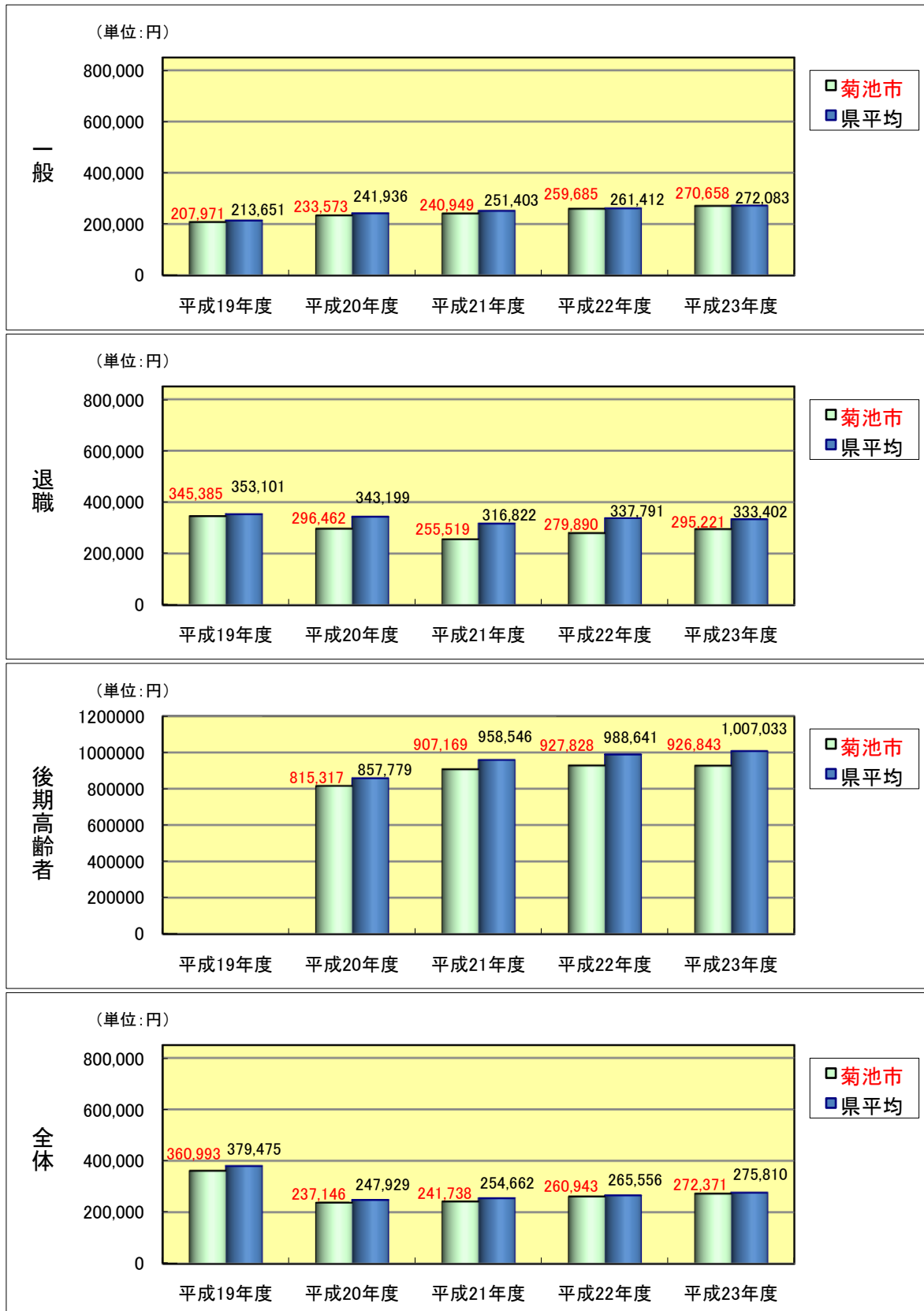
さらに今年度は現年度分の催告や財産調査を強化し、滞納額が少ないうちに早期納付を促して、高額滞納者の増加を未然に防ぐための取り組みを進めています。



健康推進課の職場風景



法制別 1人当たり診療費



注：上記グラフで、一般は、国保被保険者のうち「退職者医療制度の適用を受けない者」、退職は「被用者年金の老齢（退職）年金受給権者であって、被用者年金の加入期間が20年以上若しくは40歳以降10年以上の者及びその被扶養者」をいい、全体の数値は一般と退職の合計になっている。（ただし、全体の平成19年度には老人医療分も含まれている。）
後期高齢者は、平成19年度は制度施行前のため表示していない。